

こながきにきつてく や鶯菜

ゆふ垣の竹にそだつや鶯菜

可全

松聲

〔續江戸砂子〕江府名産并近在近國

葛西菜。かさいは淺草川より東の總名也、前は下總の内なり、近年武藏に屬す、江府より二里三
里ひがし也此所の菘いたつてやはらかに、天然と甘みあり、他國になき嘉品なり、或人菜を好んで、諸州の菘を食ふ、京東寺の水菜、大坂天王寺菜、江州日野菜など食くらぶるに、葛西菜にまされるはなしといへり、

〔視聽草〕初集八巨菜。

村垣淡路守

御勘定奉行

私當分御預所下總國相馬郡押付新田百姓長左衛門居宅より、村往還道を境貳拾間餘相隔候同
人持畑松杉苗木木植置候畑縁へ、自然に菜一本生候處、根の處にて大きさ貳尺廻りも有之、丈凡六尺
程にて、左右大枝五本何れも六七寸廻りも有之、莖の處にて枝開貳間四方に相成、三月下旬花咲
候處、花色并輪大とも通例にて、當時實を結び候處、是又並の菜種に相替る儀無之、然る處生立方
は通例に無之段を以承傳、此節に相成、近村には勿論、遠方より見物に罷越候ものも有之、日々人
集候儀と訴出申候、大勢集候儀は不宜候に付、追々見物に罷越候者有之候とも、決て場所え不立
入様皆相制、菜種實入候は、拔捨候様可申付哉、依之龜繪圖相添、此段奉伺候以上、

戊五月

伊奈友之助

右之通、伊奈友之助相届候に付、伺之通申渡候、依之此段御届申上候以上、